

1 自己評価及び第三者評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2894400064		
法人名	カネカツ株式会社		
事業所名	グループホーム暖家		
所在地	兵庫県豊岡市城崎町今津787-1		
自己評価作成日	令和8年1月30日	評価結果市町村受理日	令和8年4月27日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・食事を楽しみにされている方が多く、毎日3色の食事は本職員が一人ひとりの体調も考え調理しています。ミキサー食の方も温かい食事をとっていただいています。
 ・地域の協力医院の先生、薬局(委託料要管理指導)、訪問看護ステーションとも連携して利用者様の健康管理に万全を期しています。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/28/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 福祉市民ネット・川西		
所在地	兵庫県川西市小花1-12-10-201		
訪問調査日	令和8年2月16日		

【第三者評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は開設から17年が経過し、住宅街の中で地域に自然に溶け込んでいる。利用者の多くは5~16年と長く利用しており、心身機能の低下はみられるものの、自分のペースで落ち着いて過ごせる環境が整っている。食事は地元食材を活用し、利用者の嗜好に配慮した手作りの料理が提供されており、利用者の楽しみであるとともに、健康を支える重要な要素となっている。「ごく当たり前の暮らし」「その人らしく、健康で楽しく、安心できる暮らし」という理念が、食事、生活環境、関係性づくり、医療連携などの具体的な支援に反映されている。管理者は就任2年目で多忙な状況にありながら、課題に向き合い、次に取り組むべき方向性を明確にしている。理念を大切にす職員がそろい、互いに協力しながら支援に取り組む姿勢も、事業所の大きな強みとなっている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および第三者評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	者三	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	・屋内の各場所に掲示し、理念に基づいた言動ができるようにしています。	理念は施設内に掲示されており、職員は日常の支援の中で理念を意識して取り組んでいる。さらに理念の浸透を図るため、毎月具体的な目標を設定し実践してきたが、人事異動などの影響により現在は一時的に中断している。	目標設定を年間計画にし、振り返りを毎月するなど無理のない範囲で継続する方法を検討されてはいかがか。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	・挨拶をする程度で、地域活動への参加はできていなかったです。	自治会に加入し、運営推進会議に民生委員の参加もあり、地域の情報を得ながら連携を図っている。利用者の高齢化により地域活動への参加は難しくなっているが、運営推進会議で災害時事業所での地域住民の受け入れは可能な事を伝えるなど、地域貢献のあり方を検討している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議や入居者相談等で、認知症の方の理解、支援方法など伝えています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	・運営推進会議のメンバーも増え、ご利用者様の近況報告をしたり、意見などをいただき、運営に繁栄させています。	地域包括、民生委員などに加え、新たに社会福祉課職員の参加があり、情報や助言が得やすくなった。利用者の近況や状況を伝え、意見交換の場になっている。会議録は参加できなかった家族にも送付し、職員にも回覧することで、内容の共有と透明性の確保に努めている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	・運営推進会に担当者の方も参加して頂き、適切な指示を受け対応しています。	運営推進会議を通じて市や地域包括職員との関わりがあり、施設長が地域密着型サービス事業者協議会の会長を務めていることから、市職員との連携が深まっている。法的な制度に関する助言を受けやすくなり、行政への連絡や相談も円滑に行えるようになってきた。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	・身体拘束の学習会を通じて、身体拘束のないよう努めています。	事業所では「身体拘束等適正化の指針」を策定し、定期的に学習会を実施している。転落リスクがある利用者に対して4点柵を使用することがあるが、「身体拘束廃止フローチャート」に基づき適切に対応している。身体拘束の廃止に向けて、ケアカンファレンスで継続的に検討を行っている。	

自己	第三	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	・虐待防止研修会やカンファレンスを通じて虐待が起きないように努めています。	虐待防止に向けて、定期的に研修会を実施し、チェックシートを用いて職員同士で確認し合う取り組みを行っている。ストレスコントロールに関する外部研修にも参加し、日頃から職員間で注意し合っている。研修後は報告書を提出し、内容の振り返りを行っている。	
8	(7)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	・職員は会議において、日常生活支援事業や成年後見制度について学習するとともに、入居者様においてご利用者や家族に各制度について説明しています。	職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について、制度を利用している利用者の支援を通して理解を深めている。会議などで制度に関する内容について話し合うこともあり、権利擁護が身近な課題であるという認識している。	
9	(8)	○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	・契約時にはご家族に不安のないように十分に説明しています。また改定時にも説明をするよう努めたいです。	契約前に家族が見学を訪れることもあり、契約時は不安や疑問点について丁寧に説明し、理解と納得を得たうえで同意を得ている。重度化した場合の対応について質問があった際には、事業所としてできること・できないことを明確に説明し、相談しながら進めていく方針を伝えている。	
10	(9)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	・運営推進会議の議事録を、利用者家族や職員に掲示し確認をいただいています。	運営推進会議に家族の代表が出席している。議事録は参加していない家族にも、利用者の近況報告と共に送付しているが、運営に関する意見は少ない。家族からの利用者個別の要望については適宜対応している。	
11	(10)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	・職員からは日々のカンファレンスで意見や提案がしやすい雰囲気を作っており、ご家族様からは、面会時や推進会議で聴取し運営に反映しています。	毎朝、ミーティングを実施し、日々の情報共有や意見交換を行っている。毎月のカンファレンスには職員の意見や提案を聴く機会を設けている。利用者の支援に関する内容が多いが、勤務時間や食事に関する提案があり、状況に応じて改善が行われている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	・職員の状況を把握し、勤務シフトの作成には職員の都合を最優先しています。 ・給与面、勤務時間の配慮など整備に努めています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	・職員個々の力量を把握しながら、研修等を実施しています。		

自己	第三	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	・地域密着型サービス事業者協議会に参加し、今年度は会長として貢献することができたと考えています。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	・日常生活で言葉にされたり、表情に出されることで、声掛けをするなどして話していたけように接しています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	・入居時に困られていることや要望について聴くようにしています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	・入居される段階で、ご家族様、本人より聴取し、事前紹介資料など参考に支援についてよく話し合っています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	・理念にも照らし合わせながら、良い関係が作れるよう努めています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	・面会また通院時など利用者様とご家族の関係が保てるように努めています。 ・月に一度は利用者様の様子を文章で送っています。		
20	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	・面会や手紙で関係が途切れないようにしてきましたが、日々の会話で昔話を聞く程度の対応しかできていません。	現在は、携帯電話や手紙でやり取りを行える利用者がいないが、ご家族の面会を心待ちにしている。面会時には、家族とゆっくり過ごせるよう、必要に応じて外部スペースを活用することもある。外出の機会が少なくなってきたため、今後は個別の希望に応じて、買い物や喫茶店などへの外出支援を行っていく予定である。	

自己	者 第三	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず に利用者同士が関わり合い、支え合えるような 支援に努めている	・食事の席など人間関係を重視し、孤立して 状況になる方がいないよう、日常生活を観 察し、席替えなどもしながら努めています。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関 係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族 の経過をフォローし、相談や支援に努めている	・退去される時も、何かあれば相談してい たください伝えてあります。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握 に努めている。困難な場合は、本人本位に検討し ている	・本人の気持ちに添って介護計画を作成し ています。	お花の好きな利用者には、スタッフが持参した 花を施設内に飾ってもらい、旅館で働いていた方 にはタオルをたたんでもらうなど、掃除などの家事 全般についても自ら関わってもらっている。生活 歴から汲み取りにくい場合は、職員が本人にこま めに関わることで徐々に話を聴くことができ ている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環 境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努 めている	・事前資料、ご家族やご利用家族本人と話 をする中で生活歴を把握しています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する 力等の現状の把握に努めている	・心身の状況の把握、毎日の生活状況の記 録などを通して、一人ひとりの状況の把握に 努めています。		
26	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方 について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、 それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即 した介護計画を作成している	・ご本人、ご家族担当ドクターの意見を聞き ながら本人の意向に添った介護計画を作成 するようにしています。	フロア会議で、職員からの情報を基に相談員が 2か月毎にモニタリングを行い、利用者の現状を 把握共有するとともに、必要に応じて介護計画に 反映している。利用者のやりたいことや好きなこと を重視し、時には家族からの情報や思いも参考に している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を 個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら 実践や介護計画の見直しに活かしている	・ケアカンファレンスでスタッフの意見を調整 しモニタリングを検討しながら実践や介護計 画を見直しています。		

自己	第三	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	・ご本人や家族の状況に応じて、ニーズを検討し対応できるように努めています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	・成年後見また日常生活支援事業の活用、図書館の利用など、ご本人が楽しい生活ができるように支援しています。		
30	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	・ご本人の症状によって必要な医療機関に受診できるように支援しています。	これまでのかかりつけ医を優先しているが、現在は近隣の事業所のかかりつけ医が主治医となっている。定期的な往診と必要に応じて他科受診につなぐ体制が整備されており、日々の健康管理が行われている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	・協力医院の看護師とご利用者の状況に応じて連絡をとっています。また医師を通じて訪問看護ステーションに相談するなど受診看護の相談をしています。		
32	(15)	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	・入院時の情報提供、退院時の医者やスタッフからの情報提供、入院病院担当医から当施設協力医院への情報提供などを依頼し、情報の交換に努めています。	食事も含め、利用者の日々の体調管理に注意している。入院が必要な場合は、主治医の指示の基、速やかに協力医療機関につないでいる。面会時に家族からの情報とともに、利用者の状態を確認、参考にし、退院後の受け入れの準備をしている。	
33	(16)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	・協力医院のドクターと相談しながら、ご家族、ドクター、施設スタッフと今後の介護について相談し支援させていただいています。	契約時に事業所の方針を伝え、納得を得ている、利用者の状態悪化や入院があった場合は、家族と今後の対応を、主治医を交え確認している。主治医の指示により訪問看護師の協力を得ることもあり、本人が安楽にすごせ、家族が不安なく寄り添えるよう職員はサポートに努めている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	・利用者の急変や事故に応じて実践をすることができます。		

自己	第三	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(17)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	・防災、防火訓練を実施し、施設に応じた対応はできています。	施設としての定期的な防災訓練は、年2回実施している。ただ、地域との具体的な協力体制にはいたっていない。運営推進会議等で、事業所での地域住民の受け入れは可能であることは発信している。	今後も運営推進会議等で事業所の理解、防災対策への備えについての重要性について発信していただきたい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(18)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	・人格を尊重するような言葉かけをするように心がけています。	職員側の都合やできるできないの判断ではなく、利用者の思いや意向を尊重することを大事にしている。利用者とは常に親しくなりすぎないように、感情的にならないよう節度を持って接するように注意している。毎朝、職員間で支援方法や利用者の状態を確認している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	・日常的に話を聴くなかで、思いや希望を聴き、自分で物事を決められるように支援しています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	・その人らしさを大切にできるように配慮しています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	・清潔に留意し、身だしなみに配慮するようにしています。		
40	(19)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	・食事の好みに配慮し、おいしく食べていただけるように配慮しています。食器拭きやおしぼりをたたむなど手伝いもされています。	買物は、地元の店で週2回と必要時に新鮮な物を購入している。利用者の好物や好みの味付け、調理法を工夫して食べやすいメニューを心がけている。介助の人もいるが、職員も共に会話しながらの食事は、日々の楽しみとなっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	・個々のご利用者様の嗜好、水分量等に応じて栄養バランスが摂れるように配慮しています。		

自己	第三	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	・食後の歯磨きを呼びかけ、肺炎等の防止を支援しています。		
43	(20)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	・一人ひとりの排泄状況を知り、自立に向けた支援をしています。	利用者の意向で、居室にポータブルトイレを置いている人も多く、夜間の安心と転倒予防につながっている。自分のペースでトイレに行っている人もおり、間に合わなかった場合などは、職員がさりげなくサポートに努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	・便秘にならない、また便秘が改善されるように、水分の工夫やドクターとの相談等を行い取り組んでいます。		
45	(21)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	週に2回は入浴していただけるようにしますが、拒否されることもあり、ご本人の思いを最優先しています。	おおまかな入浴日はあるが、利用者の意向で、日や時間をずらして声かけしたり、タイミングを見計らって誘っている。寝たきりの方や重度の方は、柔軟にシャワー浴、もしくは清拭で対応することが多い。気持ち良く安心して入ってもらえるよう個々の思いを尊重している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	・一人ひとりの状況に応じて、安心して休んでいただけるように支援しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	・薬局と居宅療養管理指導で連携し、薬を適正に服用していただけるように努めています。副作用については職員も理解しています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	・協力していただける方には、洗濯や食事などの役割を分担しながら、充実した日々が過ごせるように支援しています。		

自己	者 第三	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(22)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	・病院への通院、近所の散歩など必要に応じて外出支援をしています。	現状、利用者個々の要望に応じた外出の機会は、十分には持っていない。余裕のない職員体制が課題であるが、必要なことであり利用者の思いを少しでも反映したいと検討を考えている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	・日常生活でお金を使用することはなく、現金は一切所持されていません。 ・ご利用者様の勘違いなどによるトラブルもあります。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	・電話や手紙のやり取りはできるように配慮しています。		
52	(23)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	・温度や湿度の調整に配慮し、ご利用者様に声掛けをしながら対応しています。 ・ダイニングルームに花を飾るなど季節感を採り入れています。	各フロア毎に快適に過ごせるよう室内の換気、温度調整を工夫している。掲示板には、お正月でのおせちを食べている笑顔いっぱいの利用者の写真が飾られている。季節の花や景色の絵も飾られており、癒される。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	・テーブルの席は、落ち着いて過ごせるよう配慮しています。		

自己	者 第三	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	(24)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	・居室にはテレビなど必要なものを設置されています。	各居室には洗面台が設置されている。着替えや季節の寝具等は、持参した収納家具に整理整頓されている。ベッド周りに、自分の身の回りの小物や必需品などを置き過ぎやすく工夫している。食後、思い思いにベッドに横になって過ごす人もいる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	・建物内部の場所が分かりやすいように、また安全に移動できるように配慮しています。		